

伝えたい日本がある。

ようこそ、日本語・日本文化学類へ!



日本の教育界が小・中学校段階からコンテンツ・ベースの教育からコンピテンス・ベースへと大きくパラダイム転換しています。そのようななかで筑波大学においても学生本位の視点から大きく教育課程を見直しているところです。おりしも多文化共生化が進む現代日本社会のなかで、学術・教育・生活・文化に関わる諸課題を解決し、生存してゆくためには、目の前の現象から出発しつつも、現象のみにとらわれず、課題の本質を透徹しうる総合知が要求されています。わたしたちは日本語教育を基軸としてその問題を広く日本文化の課題として位置づけ探究することを通して、現代社会の諸課題の解決に立ち向かう能力を養成することを目的とします。

そのために、複数の分野の教員による授業科目を多く設けることで、ひとつの事象、

課題を多角的・立体的に考察する視点を提供します。とくに国際・協働の科目において、現実には生起する課題に対処する多様な具体的方策を実践的に学ぶことができるよう工夫をしています。

たとえば日本に関係の深い海外の、それほど遠くない過去に目をやることで、わたしたちが無意識に持っている固定観念が揺らげられます。いきなり地球規模的な視野を持つことは不可能ですが、まずは身近な異文化をどっぷりと体験してみることで、自己を構成するモザイクの変動が起こってきます。現今さまざまな局面においてこの社会は異文化を取りこむ必要に迫られています。そのなかで確実に存在していると思っていた「自己」も変容して行かざるをえません。そのような認識を持たず右往左往して流されたり、現実に目を背けたりするだけでは、ますますこの社会は住みにくいものになってしまいます。わたしたちはよりよく生きて行くために、多文化と共生する術を身につける必要があるのではないのでしょうか。

筑波大学 人文・文化学群
日本語・日本文化学類長

谷口孝介

Contents

- 学類長あいさつ 1
- 日日生からのメッセージ 3
- 教員からのメッセージ 5
- カリキュラム紹介 7
- 日日生の授業紹介レポート 9
- 国内実習・海外実習・日本語教育実習 11
- チューター制度・留学生 13
- 留学生 14
- 海外留学 15
- 卒業論文 16
- 卒業後の進路 17
- まだまだ知りたい学類 Q&A 19
- 入試案内・アクセス 21



このロゴマークは、2004年に制定されました。学類関係者の公募により選ばれたものです。日本語・日本文化学類の通称「日日(にちにち)」から「日日草(にちにちそう)」を連想し、家紋風にデザインしたものです。日日草は、暑さに強く初夏から秋まで咲き続けます。また仲間の蔓日日草(つるにちにちそう)は冬の間も根が枯れず、大変繁殖力の強い植物です。花言葉は「生涯の友情」「優しい追憶」「楽しい思い出」です。



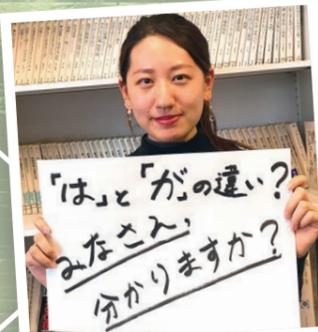
Our Message to the World

日日生からのメッセージ



少人数ゆえの仲の良さは日日が一番！先生もフレンドリーで、本当にアットホームな学類です。授業の雰囲気も先生や友人と議論しやすく、楽しく集中して授業が受けられます。(久保田)

▶**教員からのメッセージ**
(p.5)



日本語母語話者も、日本語を学ぶ留学生も、日本語に関して疑問を持ったことがあると思います。日日では日本語の仕組みと言語学が学べます。日本文化や日本語教育科目も充実しています。日本語・日本文化に興味のある方や日本語教育に携わりたい方はぜひ日日へ！(ワン)

▶**カリキュラム紹介** (p.7)



日日に入ってぜひやってみたかったのが、チューターでした。海外の学生と友達付き合いができる機会は、社会人になったらさらに減ってしまいます。学生の今だからできることです。留学生と我々日本人の「違い」に気づくことほど面白いことはありません！(高橋)

▶**チューター制度・留学生**
(p.13)



私は高校生の時にニュージーランドでホストマザーにこう聞かれて、何も答えられませんでした。日本とはどんな国か、たくさんのことを学び、自分なりの「答え」を見つけましょう！(小嶋)

▶**海外留学** (p.15)

日日では言語も文化も両方学ぶことができます。言語か文化どっちか一方だけなんて選べないと思っていた私にとって日日はぴったりの学類でした！今受けている授業はどれも魅力的で、毎日の授業が楽しいです！(那須)



▶**カリキュラム紹介**
(p.7)

普段私たちが使っている日本語ですが、実際に学んでみると新たな発見で満ちあふれています。日日は魅力的な授業や国内外の実習等、日本語・日本文化を学ぶには最適の環境です。さあ、一緒にその奥深さに触れてみませんか？(百留)

▶**日日生の授業紹介レポート**
(p.9)



なぜ日本語を勉強するの？と思うかもしれませんが、母語だから分かること、そして分からないことがあります。例えば少し語尾を変えただけでそっけない「馴れ馴れしい」「強気」「弱気」のように感じ方が変わりますが、表現の根底にある意識について深く考えると、日本人の性質が見えてきます。(渡邊)

▶**卒業論文** (p.16)



日本語と日本文化を学びたい！そして日本語教師になりたい！そういう私の夢を実現する場所は日日しかありませんでした！「日本語教育実習」では、筑波大学の日本語授業の見学もできるので、本当の教育現場の様子を見ながら学習できました。(ソー)

▶**卒業後の進路** (p.17)



自分で一から研究をする機会は、大学でも意外と少ないです。フィールド実習は、現地の人々や風景から自分で一次資料、つまり生のデータを収集して、生の研究ができる魅力的な授業です。(渡辺)

▶**国内実習** (p.11)

皆さん、世界各地で異文化交流を体験してみませんか？日日では日本の言葉と文化で世界をつなぐ海外実習をたくさん開講しています！奨学金が充実して、全額支給も珍しくありません！日本人はもちろん、留学生も参加可能です。興味があればぜひ参加してください。(リュウ)

▶**海外実習** (p.11)



日日では日本語教育にも力を入れています。海外の人に日本語を理解してもらうポイントの一つに「楽しく教える」ことが挙げられます。日本語を楽しく学習してもらえるようにするにはどうしたらいいのか、日日で考えていきましょう。(瀬邊)

▶**日本語教育実習**
(p.11)

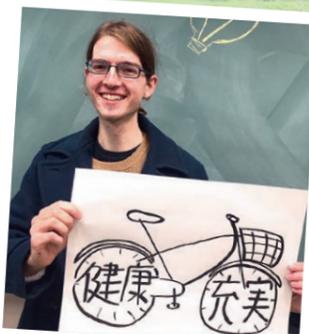


大学の授業では、英語や第二外国語はもちろん、学群が同じ人文学類、比較文化学類の授業も受けることができます。他学類の授業は、自分の学類で扱っている分野とまた違った学問を楽しむことができ、日本をもっと深く知る上で、新鮮な気持ちになります。(松岡)

▶**Q&A 学習編** (p.19)

大学には循環バスがあり、定期で乗るととても安いという利点がありますが、自転車も使えます！緑に囲まれているキャンパス内を季節毎に楽しめたり、ちょっとした買い物や友人との交流にもぴったりです。筑波大学で健康的かつ充実なキャンパスライフを送ってみませんか？(マテイ)

▶**Q&A 生活編** (p.20)



教員からのメッセージ



石田 尊 ISHIDA TAKERU
日本語学・eラーニング
Japanese linguistics / e-learning

日本語における他動性（他動詞らしさ、他動詞文らしさ）や、受動文などのヴォイス現象に特に興味を持ちつつ、日本語の文法を研究しています。授業では日本語の歴史も扱っています。日本語はどういう言語か、どうして今のような姿になったのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



今田 水穂 IMADA MIZUHO
日本語学・コーパス言語学
Japanese linguistics/Corpus linguistics

我々は複雑な思考や情報を、いかにして限られた単語の列で伝達するのでしょうか。また、ごく限られた単語の列から、いかにして複雑な情報を取り出すことができるのでしょうか。我々がどのように思考を言語化し、伝達を効率化し、意味を解釈するのか、言語と意味の関係について考えています。



入山 美保 IRYAMA MIHO
日本語教育学
Japanese language education

Japan-Expert (学士) プログラム日本語教育コーディネーターをしています。研究テーマは、中央アジアにおける持続可能な日本語教育支援です。非母語話者学生が日本の文化・社会を理解し、母国の日本語教育を牽引する専門的な日本語力、知識を持った人材になるにはどのようにすべきか考えたいと思っています。



小野 正樹 ONO MASAKI
日本語教育学・日本語学
Japanese language education / Japanese linguistics

日本語を中心として、言語表現と言語行動の関係を見ています。どうやって言語化するのかという認知的な営み、聴き手へのポライトネスの表し方について考えています。今はカザフスタンやウズベキスタンなどの中央アジア地域との交流にも積極的に取り組んでいます。



金 仁和 KIM INHWA
韓国語学・対照言語学
Korean linguistics / Contrastive linguistics

語彙分類の方法は、文法、意味、語用的用法等、目的により様々です。意味派生からの分類も興味深いです。例えば、擬声語・擬態語等で二つ以上の感覚の意味を持つ語彙の分布を韓日で比較すると、両言語の相違点が文化の影響面から理解でき、文化と関わる言語の特性がよく分かります。



清登 典子 KIYOTO NORIKO
日本文学
Japanese literature

専門は日本文学で古典詩歌（和歌・俳諧）を中心に研究しています。大学で学ぶことは、これまでの常識を疑い、自分で調べ考えて自分の言葉で表現する力を身につける事です。授業はそのための知的訓練の場です。積極的に授業課題と取り組み自分を伸ばしていってください。



澤田 浩子 SAWADA HIROKO
言語学・音声コミュニケーション研究
Linguistics / Speech communication studies

私たちが生きて、生活していくうえで、他者とのコミュニケーションは避けて通れません。人間が社会で生きるとはどういうことか、ことばの側面から考えていきたいと思っています。授業では、夏休みに学生たちと一緒にフィールドワークに出かけ、地域の言語生活の調査をしています。



杉本 武 SUGIMOTO TAKESHI
日本語学・コーパス言語学
Japanese linguistics / Corpus linguistics

日本語の動詞に関わる文法現象を中心に研究しています。コーパスと呼ばれるコンピュータ上の大量のテキストデータを用い、実際の用例を見ながら、動詞の意味が文の組み立てとどう関わるか、例えば、なぜ「嫉む」は「才能を嫉む」で、「嫉妬する」は「才能に嫉妬する」となるのか、等を考えています。

受験生の皆さんへ



鈴木 伸隆 SUZUKI NOBUTAKA
文化人類学
Cultural anthropology

文化人類学は、人びとの生活そのものを調査研究の対象としています。非常に間口が広いことが特徴です。人間が対象を捉える眼差しは、いろいろな欲望や偏見に満ちています。人やモノが世界規模で移動する時代だからこそ、自分を相対化する人類学的な視点は重要です。



竹沢 幸一 TAKEZAWA KOICHI
言語学
Linguistics

「言語は人間精神の鏡である」と言われます。母語（日本語）の考察と言語間の対照を通して、人間の創造的思考の源となる言語を産み出す心のメカニズムを探ることが私の研究目的です。日本語の分析が日本語一言語に留まらず、人間言語一般の研究につながる面白さがそこにはあります。



谷口 孝介 TANIGUCHI KOSUKE
中・日比較文学
Comparative literature between China and Japan

大学で学ぶ意義の第一は、「教養（リベラル・アーツ）を身につける」ことにあります。真の教養とは、人生におけるさまざまな判断の機会に断固として決断できるバランス感覚だと思っています。古代の文学を研究していると、学問が細分化される以前の、理想的な教養人が存在することにしばしば驚かされます。



沼田 善子 NUMATA YOSHIKO
日本語学
Japanese linguistics

現代日本語の文法を研究しています。学校文法で「副助詞」とされる語群の意味と文法的な働き、「やる、くれる、もらう」等の授受動詞や「視点」の問題に興味を持ち、古典的な方言、あるいは、他言語の研究の専門家と連携して、研究を進めています。



朴 宣美 PARK SUNMI
近現代日朝文化交流史・ジェンダー史
History of cultural exchange in modern Japan and Korea / Gender history

私は、社会文化史・ジェンダー史の視点から近代日本や朝鮮を考察しています。19世紀末から20世紀前半において、朝鮮から日本へ、日本から朝鮮へ渡った様々な人々（特に女性たち）の移動を明らかにし、それによって生まれる新しい考えや「知」について研究しています。



一二三 朋子 HIFUMI TOMOKO
日本語教育学
Japanese language education

日本語教師の役割は、単に日本語を道具として教えることだけではないと最近つくづく考えるようになりました。日本語を教えることが日本の心を伝えることにもつながるということ、授業を通してみなさんと一緒に考えていければと思います。



松崎 寛 MATSUZAKI HIROSHI
日本語教育学・音声学
Japanese language education / Phonetics

[sem:ouwaozse:yakxtopjifonj:oco:ikx] (専門は音声学と日本語教育)
[dzic:u:oc:Φuumisezse:tatctojat:emas] (実習を一二三先生達とやってます)
[tskuβapizukep:icctene] (筑波に受験に来てね)
[ʔjorocku] (よろしく!)



渡部 宏樹 WATABE KOHKI
映画メディア研究
Cinema and Media Studies

研究対象は資本主義社会における文化と芸術です。日日の「専門英語」では日系アメリカ人の歴史や明治の日本人が英語で書いた日本論を扱い、アメリカや英語というレンズを通して日本について深く知る授業を行っています。冬は毎年エジプト科学技術大学に渡り、「日本文化」の授業をしています。

カリキュラム紹介



教育の目標と特色

筑波大学学士課程の教育目標および本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（文学）の学位が授与されます。

- グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識（言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学など）と探究能力・研究手法とを修得している。
- 異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる言語運用能力、情報処理能力および異文化コミュニケーション能力を身につけている。

本学類では、世界の諸言語の一つとして日本語をとらえ、言語学的に研究するための専門的知識や的確な分析力、そしてそれを外国語として教えるための方法を身につけることを目標としています。

日本語を話している私達は、「あれは筑波山です」と「あれが筑波山です」とを無意識の内に使い分けています。けれども、この「は」と「が」とは、いったいどこがどう違うのかと聞かれると、ちょっと困ります。すぐにうまく答えられる人などそうはいません。

日本語を外国人に教える時には、自分には分かりきっていることであっても、それをひとつひとつ丁寧に教えていかなければなりません。そして、そのためには、日常何気なく使っている日本語をよく観察し、客観的に分析する習慣をつけなければなりません。

また、日本語教師や国際的業務に携わる人は日本文化の伝達者であることを求められます。同時にそのような人は、日本にとっては異文化交流の窓口であり、これまで日本列島に住んでいる人々が築いてきた文化を基礎に、異文化との接触を通して新しい文化をつくっていくうえで、大きな役割を期待されています。すなわち日本文化の創造者でもなければなりません。

文化とは、私達が生活のなかで表現するものすべてを含みます。思想、芸術、文学はもちろん、政治、経済、教育などすべての社会現象や日々の生活のありかたそのものが文化です。また、日本文化は孤立して独自に形成されてきたものではありません。これまでの異文化交流がどのように行われてきたのか学ぶことも必要です。

国際・協働科目においては、現実に生起する課題に対処する多様な具体的方策を実践的に学ぶことができます。また、海外で実施する国際研修や日本語教育インターンシップ、国内で行うフィールド実習、さらに情報リテラシーなどの授業を通して、実践的な場面でのコミュニケーション能力や課題解決能力の獲得をめざします。

授業内容

育成する能力とカリキュラムの構成		1年	2年	3年	4年
専門科目	総合的な分析能力と問題発見、解決能力の統合			総合演習導入 総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ	卒業論文演習Ⅰ 卒業論文演習Ⅱ 卒業論文
	多様な背景の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる能力		国際・協働科目群：共同研究、対話実習、教育実習、フィールド実習、国際研修、企業研修、インターンシップ		
専門基礎科目	グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識		日本語科目群：日本語の音声・音韻、日本語の文法、日本語の語彙、日本語の談話、日本語の語用論、言語研究の方法、言語と文化、コーパス言語学、ほか 多文化共生・日本語教育科目群：海外の日本語教育と日本学、多文化の中の日本、ICTと言語教育、ほか 日本文化科目群：日本の政治と社会、近代日本の文化交流、日本の宗教と芸能、日本文学の歴史、国語科教育と文学、中国文学と日本文学、ほか + 人文学類、比較文化学類、社会学類社会学専攻の専門科目		
	日本語や日本文化、多文化共生社会のあり方に対する基礎的な知識と明確な問題意識の醸成		日本語教育学特別演習、海外語学研修 専門英語A,B,C 日本語・日本文化研究法、概論科目 + 人文学類、比較文化学類、社会学類社会学専攻の専門基礎科目 学際科目		
基礎科目	広い視野からの専門分野の発見と位置づけ	共通科目			
		関連科目			

1年次

- 共通科目および他学類のカリキュラムから幅広く専門基礎科目を履修することで、広い視野のなかで、自らの専門分野を発見し位置づけます。

2年次

- 専門科目を通して、言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関するバランスのとれた知識の獲得を目指します。
- 実習、留学生との合同授業、国際研修などの実践的な科目を通して、異言語・異文化との接触の中で、自国語・自文化に対する問題意識を醸成します。
- 専門英語などを通して、研究および発信ができる外国語力（特に英語力）を身につけます。

3年次

- 実習などの実践的な科目において、問題意識を深め、解決のための応用力・実践力を向上させます。
- 演習などのより専門的な科目を履修しながら、卒業研究のテーマ設定に向けて、総合的かつより高度な知識と研究方法を身につけます。
- 専門科目の学修から卒業論文作成への架け橋となる総合演習は、各教員の専門性を生かしつつ複数教員がグループ指導を行うもので、これにより、ひとつの事象、課題を多角的・立体的に考察する力を身につけます。

4年次

- 卒業論文執筆を通して、全人格的・総合的な分析能力を高め、問題発見、解決能力の統合をめざします。

日日生の授業紹介レポート

STUDENTS REPORT

ICTと言語教育演習【石田 尊 先生】

ICTの発達によりますます身近になってきたオンライン教材や遠隔授業の仕組みを学べる授業です。インターネットを通じていつでもどこでも勉強できるeラーニングについて理解できます。理論だけでなく、実際使われるソフトに触れるのがこの授業の強みです。仕組みの理解が主目的なので、コンピューターが苦手な方でも大丈夫です。

(BAI BOO YOUNG)



日本語教育学特別演習【入山 美保 先生】

日本語教育に必要な知識を検定する試験として「日本語教育能力検定試験」があります。この授業では、検定試験の過去問を使い、学生同士で解説や質問をしながら日本語教育に対する理解を深めていきます。知識の学習だけでなく、自律的に学ぶ姿勢も身につけられる授業です。実際の日本語教育能力検定試験に合格した先輩もいるそうです。

(前田 愛)



日本語の語用論【小野 正樹 先生】

会話で相手との距離の取り方を難しく感じたことはありませんか？これは留学生も感じる問題です。相手により大きく態度を変えるのは良くないですが、誰に対しても同じ言葉遣いをするわけでもありません。この授業では、語用論の論文や生データから様々な文化の「配慮表現」の特徴を探り、円滑なコミュニケーションについて考えます。

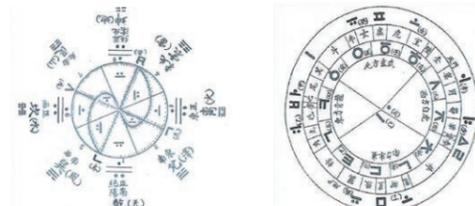
(黒須 珠実)



言語と文化I/II【金 仁和 先生】

言語の持つ意味や構造から文化を探っていきます。日本語のみならず、他の言語との比較対照から見えてくる思考や価値観の違いを感じることで、自分の中に新たな視点を作り出すことができます。その単語がなぜあるのか、意味の違いはなぜ生まれたのか、等を知ることによって、深い言語理解・文化理解へとつながっていきます。

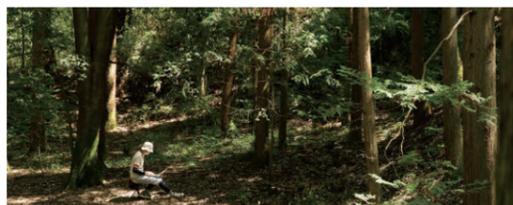
(永柳 裕次)



世界の言語と日本語【澤田 浩子 先生】

「木の右側に人がいる」を「木の北側に人がいる」と表現する言語があります。言語が違えば世界の見方も変わります。言語を分類したり、異なる言語を比べることで類似点や相違点を整理する言語類型論や対照言語学について、論文を読み解くことでその基礎を身につけます。難しいですが、先生の丁寧な解説や日本語との対照で理解を深めることができます。

(太田 涼子)



コーパス言語学実習【杉本 武 先生】

「争い」と「戦い」をどう使い分けていますか？意味の違いをどう説明しますか？この授業では、書籍やウェブなどの書き言葉を収集し機械可読化した「コーパス」を用いて言語を分析する方法を学びます。コーパスに蓄積された膨大な使用実態から傾向や相違点を見つけ出し、意味の違いを考えるこの方法は、他の授業で言語を分析する際にも活用できます。

(高田 愛未)



言語学概論【竹沢 幸一 先生】

「恐竜は明日空から降ってこない。」という文は、理解することはできますが、それを紙に描くことは不可能です。人間は言語を用いることで、過去でも未来でも、現実ではないものも表現し、伝えることができます。このように言語は、人間の思考と深く関わっているのです。この授業では、言語を通して人間の精神を解き明かしていく方法を学びます。

(竹下 大崇)



日本語の文法I/II【沼田 善子 先生】

「刑事が犯人を自首させた」「刑事が犯人に自首させた」という文はどちらも言えます。一方「花子が肉を腐らせた」は言えても「*花子が肉に腐らせた」は不自然となってしまいます。このような違いはどこにあるのでしょうか。普段何気なく使っている日本語を分解し、どのような形がどのような意味を持っているのか、それを考えていくのがこの授業です。

(瀬邊 風馬)



文化の伝流と複合実習【谷口 孝介 先生】

東大寺や法隆寺などを紹介した平安時代の文献「七大寺巡礼私記」をテキストに、奈良の古刹について学びます。当時の姿と現在の姿を比較することで、主に仏教や寺院の建築様式について造詣を深めます。希望者のみ、授業で紹介された場所を2泊3日で見学旅行します。仏像が好きな人には受講おすすめ。ただし授業内容は毎年少し変わるので、要確認。

(中村 瑞歩)



近代日本の文化交流【朴 宣美 先生】

戦前の日本人と聞いて、どんなイメージを思い浮かべますか。戦争映画で描かれる、被害に苦しむ民衆の姿でしょうか。しかし当時、人々は皆国内に留まっていたわけではなく、移住、侵略、その他様々な理由で、日本を出て移動を繰り返してきたのです。人の「移動」に注目しつつ近代史を見直すことで、あなたの歴史観も揺さぶられるかもしれません。

(新井 可奈代)



日本語教育概論【一二三 朋子 先生】

世界には日本語を「外国語」として学習している人が沢山います。日本語教師を目指す日大学生注目のこの講義では、教育現場で使われる日本語教材を用いて教育文法を学んだり、実際に教案を作成したりします。留学生とのグループワークもあり、外から日本語を見ることで、その特徴や仕組みを再認識し、日本語教育への理解を深めることができます。

(岡 迪瑠)



言語教育対話実習I/II【松崎 寛 先生】

留学生と日本人学生が組んで、文字を介さず、外国語だけを使って10分程度の授業を行います。より良い授業を作ろうと試行錯誤するのは大変ですが、自分の発想力が引き出され、また他の組の発想に驚かされ、とても充実した経験が得られます。外国語に精通していなくても大丈夫です。授業作りの楽しさや達成感を感じられる、おすすめの授業です！

(佐藤 陽)



国内実習・海外実習・日本語教育実習

国内実習

ひとくちに日本文化といっても、自分が育った環境だけが日本文化ではありません。教室を離れて実際に現地を訪ねることで、それぞれの地域に根差した多彩な生活・文化と人々の存在に触れることができます。

- フィールド実習（「日本語方言研究フィールド実習I/II」）
（「日本語談話研究フィールド実習I/II」）
（「日本文化研究フィールド実習I/II」）

日本の都市部や地域社会を訪れ、文化やことば、現代の社会が抱える問題など、その地域の生活の在り方を多角的に捉えることをテーマとしています。過去に実習が行われた地域は、多摩川源流の山村（山梨県丹波山村）、沖縄の半農半漁集落（沖縄県糸満市）、「合併しない宣言」を掲げる町（福島県矢祭町）、瀬戸内の多島美のなかに位置する豊町（広島県大崎下島）や蒲刈町（広島県上蒲刈島）などです。夏季休暇を利用して、合宿形式で実習を行うので、先生と学生の距離も近くなり、毎晩遅くまで語りあうことも多いです。



体験記

日本語方言研究フィールド実習



上蒲刈島に一週間程度滞在し、日本語によるコミュニケーションや上蒲刈島の方言形式などを調査し、レポートを作成しました。私は上蒲刈島と豊島の調理の動作の語彙について調査しました。例えば今回の調査で得た、匂いを表す表現は「いい匂いがぼーんとする」でした。ほかにもソウメン瓜の身を外すときの言葉「はなれちやいちゃい」など興味深い発見がたくさんできました。

現地でお話を伺い、自分が集めた生のデータでやりたい研究ができることは本当に貴重な体験になります。興味関心のあるテーマをなんでも決定できるため自由度が高く、事前学習からレポートまで先生方が丁寧に指導していただき、学ぶところが多い価値ある実習であると感じました。大変ではありますが、必ず今後のための力になります。（大橋 香奈）

日本文化研究フィールド実習



私たちは広島県呉市のとびしま列島で一週間ほどフィールド実習を行いました。事前調査を通して各自で研究テーマを決め、現地で調査を行いました。私は蒲刈町大浦で荒神信仰について調査しましたが、実際に行ってみたところ、文献で得ていた情報とは現地の様子が大きく違っていたので、自分で現状について再調査し、その上で考察をすることが必要になりました。

しかし、調査地を自分の足で歩いて、その地域を直接見てデータを集めるという貴重な機会を得ることができ、とても勉強になりました。現地調査後のレポート作成でも、先生方が丁寧に指導していただき、たくさんの良い経験ができました。こういったことが、フィールド実習のとても大きな魅力ではないかと思っています。（奥 智佳）

海外実習

本学類では、実践性と国際性を重視し、海外で行う実習の科目「国際科目」を提供しています。日ごろ教室で学んだ知識を異言語・異文化を背景とする人々との交流の中で見つめなおすことにより、異文化理解、国際交流を身をもって体験することができます。

- スロベニア実習（日本語・日本文化国際研修I/II）

スロベニア共和国は、古くから欧州各地を結ぶ文化・流通の拠点となった地域です。その首都にあるリュブリャナ大学を訪問し、日本語を学ぶ大学生との学術交流会や、中欧地域の民俗や歴史、宗教史、教育事情などが学べる特別プログラムを受講します。



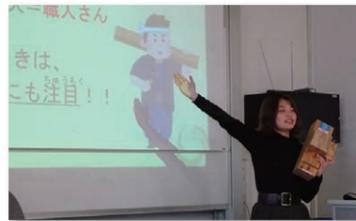
- 韓国実習（日本語・日本文化国際研修 III/IV）

「旧日本軍慰安婦」共同の家（ナムムの家）や、他の地方に在住する「元慰安婦」のハルモニ（おばあさん）たちと交流したり、韓国の大学生たちと討論しながら、「慰安婦問題」をはじめ、日本と韓国の国際関係、また韓国の現代史への理解を深めます。



体験記

スロベニア実習



「日本文化とは何か」考えたことはありますか？自分が生まれ育った文化を異なる文化をもつ人に紹介するのは、意外と難しいものです。この実習では、現地へ行く準備期間にスロベニアや日本語教育についての知識を深め、現地で行う日本についてのプレゼンを半年かけて準備します。この半年間は自分にとって、自国の文化とは何かを問い直す良いきっかけになりました。

また、実習中は現地の学生と交流する機会もたくさんあります。例えば彼らの授業に参加したり、スロベニア語を教えてもらったり、プライベートでご飯に行ったりなど...新しい出会いであふれています。たった3週間の海外経験でも、もしかしたら自分の人生が変わるかもしれません！美しいヨーロッパの小国で自分の視野を広げてみませんか？ちなみに私はこの実習がきっかけで、半年間スロベニアに留学することを決めました！（館野 みなみ）

韓国実習



日韓問題への理解を深めるためソウルや釜山、大邱等の都市で様々な施設を訪れ、多くの人々と交流しながら自らたてたテーマについて調査を行います。

近年、日韓関係の報道を目にするのは少なくないですが、深く考えたことはあるでしょうか。実習は「自分」の考え、意見を持つ良い機会になります。実習ではハルモニや現地の活動家がどのような想いで活動しているのか、同年代の高校生・大学生が日韓関係、日本にどのような考えを持っているのかを知ることができます。メディアやネットの情報ではなく、実物や生の声に触れることはなかなか経験できません。直接見聞きし、経験することは多角的な視点や「自分」の考え、意見に繋がることでしょう。日韓問題に関心がある人も、考えたことのない人もとても密度の濃い時間、経験を得ることができるはずですよ。（佐伯 佳乃）

日本語教育実習

本学類は、日本語・日本文化を総合的・相対的にとらえ、異文化を背景とする人々に適切に発信できる知識と能力を身に付けた人材を育成するという教育目標のもと、日本語教育に力を入れています。

- 国内教壇実習（「日本語教育実習」）

筑波大学内で留学生等を対象に、2ヶ月間にわたり教壇授業を行います。教案や教材の作成、授業の実施、授業後の反省会や録画授業の分析を通して、スキルアップを目指します。また、学期末には実習で行った授業活動に関する研究レポートを作成します。

- 国内企業研修（「日本語教育企業研修」）

東京・大阪のプレイングループ関連施設で働くビジネスパーソンを対象に日本語教育研修を行い、指導実践とともに、教材の編集やプレゼンテーションなどの「日本語教師」以外の職業に関する知識を深めます。

- 海外教育実習（「日本語教育国際研修I/II/III」）

マレーシアのマレーシア工科大学で、現地の大学生等を対象に日本語教育実習を行います。



体験記

国内教壇実習



教材や教育方法について学んだ後、実習生が主体となって教壇実習を行います。1日30分×3コマの授業を実習生が担当し、中上級レベルの留学生に対して食文化と旅行文化について教えました。ただ日本文化を知ってもらうだけではなく、その活動を通じてどのような力を身につけてほしいのかを考え、先生方の丁寧な指導のもと授業を組み立てていきました。教案を何度も練り直したり反省点について話し合ったり、大変だと感じることも多かったのですが、その分、学習者が楽しんで授業に参加してくれたり教えたことを使ったりする様子を見ると、達成感や喜びを強く感じました。こうした活動を通じて、日本語教育や教師の姿勢について学ぶことができ、今後のための力が得られる実習です。（大木 知世）

国内企業研修



夏季休業中の2週間、つくばから都内へ通勤し、イベント実施の補助をしたり外国人社員の方に日本語を教えたりしました。企業の雰囲気や肌を感じながら、日常生活はもちろん、ビジネス場面でも役立つ日本語を身につけることを目標に授業を組み立てました。ほとんど日本語教授経験のなかった私たちですが、授業後に社員の方からいただける丁寧なフィードバックによって、回を重ねるごとに学習項目の伝え方や学習者の方への声掛けに関してレベルアップできたと感じています。最終日、学習者の方が教えた事項を使って挨拶してくれたときは嬉しい気持ちでいっぱいになりました。座学だけではわからない、言葉や教えることの面白さ、難しさを身をもって学ぶことができます。（太田 涼子）

チューター制度・留学生

チューター制度

留学生が日本で不便なく生活が送れるように、個人レベルで支援を行うのがチューター制度です。日本語・日本文化学類ではこのチューター制度の活用を力を入れており、多くの学類生がチューターとして留学生の支援に関わっています。

チューターの具体的な役割は、留学生の学習・研究の補助（予習・復習の手伝い）を中心に、日本語学習の支援、日常生活のサポート（学内外の案内、諸手続きのための市役所等への同行、買い物の補助）などを行うことです。また、歓迎パーティーや交流パーティーなども企画し、親睦を深めています。チューター制度は決して日本人学生から留学生への支援という一方的なものではありません。日本人学生もチューターを経験することによって、日常的な交流の中から日本語・日本文化の伝達や異文化理解についていろいろなことを実感し、また学ぶことができるものと思います。



体験記

鈴木 海翔 & ジム・シアンリー

私はカンボジアからの日研生のチューターをしています。普段の主な仕事は、授業の履修を考えたり、銀行の振り込みのお手伝いをしたり、困ったことの相談を受けたり、レポートなど日本語の文章を直したり（でも直す必要がないくらい日本語は上手です）といった簡単なものです。とても仲が深まり、普段はお互いの国のことについて話したり、ご飯を食べに出かけたり、たまに恋の話もしたりしています（笑）。さらに私はカンボジア語を教わっています。また他のさまざまな国から来た日研生ともいろいろな話ができて、外からみた日本について考えることができました。世界が身近になったような気もしています。

チューターをすることで得られることはとても多く、大変貴重な経験だと思います。忙しいように思うかもしれませんが、体育会の部活に所属している自分でも無理なくできているので問題ありません。皆さんもぜひチューターをしてみてください。（鈴木 海翔）



瀬邊 風馬 & 林 宏儒

台湾から来た短期留学生のチューターをしています。仕事の内容は主に来日直後の宿舍入居の手続きや銀行口座開設、住民票登録の手伝いから、普段の授業の履修を考えたり、困りごとの相談を受けたりするなどです。

チューターをして、最も驚いたのは日本語力の高さです。授業のグループワークで一緒にグループになったとき、日本人が分からなかった日本語の用法を教えてくれたことがありました。日本語を外国語として学んできた留学生ならではの捉え方を知ることができ、日本語の面からも学ぶことが多かったのが最も印象に残ったことです。

もちろん、日常会話の中では、台湾の文化についても日本文化との比較ができ、有意義な経験となります。チューターになる前は不安もありましたが、大変なことよりもやりがいが多く、今ではやってよかったと思っています。皆さんも留学生と楽しい学生生活を送ってみてはいかがでしょうか。（瀬邊 風馬）



留学生

日本語・日本文化学類は、短期留学生・日研生・正規生（JE生含む）など、世界各地から数多くの留学生を受け入れていています。日日の学生は、チューター制度や合同授業等を通じて留学生と触れ合う機会が非常に多く、毎日が国際交流です。

【日研生の留学生数】(2013～2018年度)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
短期留学生	31	30	36	27	21	35
日研生	14	14	14	6	12	4
正規生（JE生含む）	0	2	2	4	5	6

※当該年度に受け入れ、入学した人数

留学生出身国・地域(1990-2018年度)

アゼルバイジャン	インドネシア	カザフスタン	シンガポール	台湾	フィンランド	マレーシア
アメリカ合衆国	ウクライナ	カンボジア	スイス	タジキスタン	ブラジル	ミャンマー
イギリス	ウズベキスタン	キューバ	スウェーデン	中華人民共和国	フランス	メキシコ
イタリア	オーストラリア	クロアチア	スリランカ	チェコ	ブルガリア	モンゴル
イラン	オーストリア	コロンビア	スロバキア	ドイツ	ベトナム	ラトビア
インド	オランダ	サウジアラビア	スロベニア	トルコ	ベラルーシ	リトアニア
			タイ	ハンガリー	ポーランド	ルーマニア
			大韓民国	フィリピン	香港	ロシア

【日研生】

日本語・日本文化学類は、筑波大学の「日本語・日本文化研修留学生（日研生）」の受入機関となっています。日研生とは、日本国政府（文部科学省）の奨学金により、日本の大学において日本語能力および日本事情、日本文化の理解向上のための教育を受ける留学生です。自国の大学で日本語や日本文化に関する分野を専攻としている学生が対象です。



論文集『異文化との出会い』

日研生は1年間の留学の成果として修了論文を執筆することが求められます。指導教員や大学院生チューターからのアドバイスを受け、執筆に取り組みますが、その論文は毎年『異文化との出会い』としてまとめられ、出版されます。

最近の日研生修了論文

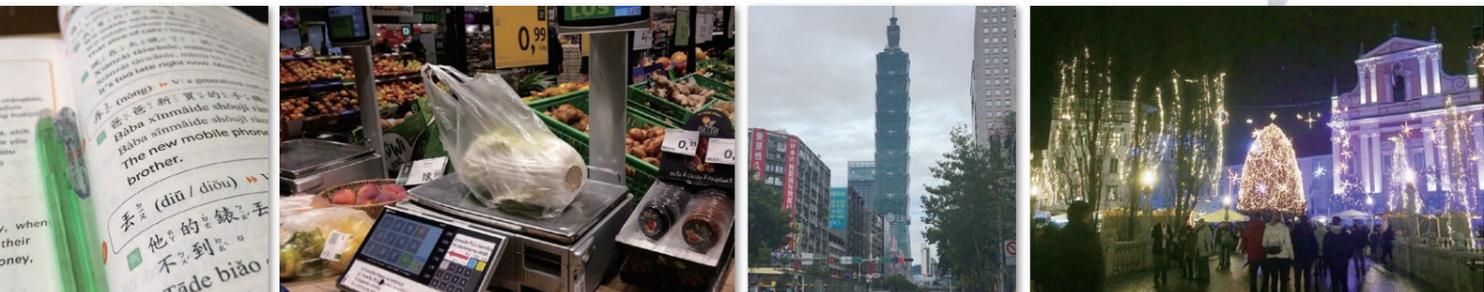
- 可能表現の語用論的用法について
- 英和翻訳におけるユーモアの翻訳戦略
- ブラジル人学校に通っている日系ブラジル人子弟のエスニック・アイデンティティ
- 少女マンガにおける日本語とポルトガル語オノマトペの比較について
- 比喩表現からみたJ-Pop(1991-2010)の恋愛表現分析
- 前部要素の2モーラ目に促音を含む短縮外来語形成
- モンゴルにおける就学前教育の現状と課題—首都ウランバートルを中心に—
- 茨城県南地域における動物名・親族語彙と方言意識
- 日本人学生のサークル集団内の留学生に対する態度
- モンゴルと日本の生業形態における国民性格の相違点
- モンゴル語の若者ことば—日本語との対照を通して—
- カンボジア人日本語学習者における役割語の問題

【JE生】

「Japan-Expert（学士）プログラム日本語教師養成コース」の正規生として4年間在籍します。母国の日本語教育の振興に貢献する日本語教師の育成を目的とします。日本語教育インターンシップに参加し、現場での実践力を養います。

海外留学

日本語や日本文化を客観的にながめる目を育て、世界に発信する力をつけるために、ぜひ在学中に一度は海外留学することをおすすめします。一年生のうちから海外留学の時期について考え、準備を進めていきましょう。世界はあなたを待っています！



交換留学制度

筑波大学は、71カ国・地域の大学や研究機関及び国際連合大学高等研究所とCIC8協定、大学間交流149協定、部局間交流223協定、合計380協定を結んでいます。
(2019.2.1 現在)

協定校への交換留学には、さまざまなメリットがあります。

1. 休学せず渡航できるので、計画的に単位を履修すれば4年間で卒業できる。
2. 留学先の取得単位は、一定の条件をクリアすれば卒業単位として互換可能。
3. 各種奨学金制度を利用しやすい。
4. 授業料相互不徴収に関する協定が締結されていれば、留学先の授業料免除。



協定校の一部

中国／北京大学、湖南大学、大連大学、澳門大学 台湾／国立政治大学 韓国／梨花女子大学校、韓国外国語大学校、啓明大学校 インド／ジャワハルラール・ネール大学 タイ／タマサート大学 ベトナム／ベトナム国家大学 マレーシア／マレーシア工科大学 オーストラリア／オーストラリア国立大学 カナダ／プリンス・エドワード島大 アメリカ／パデュー大学、オハイオ州立大学 メキシコ／メキシコ大学 ペルー／カトリカ大学 トルコ／ボアジチ大学 イタリア／カ・フォスカリ大学 エストニア／タリン大学 英国／シェフィールド大学 スロベニア／リュブリャナ大学 ドイツ／パイロイト大学 フランス／パリ13大学 ポーランド／ヤギェウォ大学 ラトビア／ラトビア大学 リトアニア／ヴィリニウス大学 ロシア／モスクワ市立教育大学、サンクト・ペテルブルグ大学 ウクライナ／キエフ国立大学 ウズベキスタン／タシケント国立東洋学大学 カザフスタン／カザフ国立大学、ユーラシア国立大学 エジプト／カイロ大学

詳しくは、<http://www.kokuren.tsukuba.ac.jp/GP/gplist.html> 「筑波大 国際交流」で検索!

体験記

M.T.【国立台湾大学】

台湾というとどんなことを思い浮かべますか? 美味しい食べ物、暑い夏、中華文化圏…。台湾での生活は、日本とさほど変わらないと感じるほど便利で快適です。もしかしたら日本で生活しているより(気分的に)リッチかもしれません。

私は現在、campus in campusという大学の留学制度を通して国立台湾大学に一年間留学をしています。生活をしている中で驚いたことは、日日の知識を反映する機会が多いことです。台湾は日本語学習者が多いので、数人の方と日本語・中国語を教えあう言語交換をしています。そこで学習者に日本を教える場面になったとき、日日で学んだ知識をどのように実際に使うかを考えさせられることが多くあります。座学の授業だけではわからなかったことが言語交換を通して実践的に知ることができると感じます。

留学して気づいたことは、「日本」という地域に対する知識の欠如です。私たちの学類では日本を日本語の文法、文化、日本語教育などの観点から学びますが、学んでいるからこそ日本という場所で作られている文化を知らないのだと実感します。これは留学をしなかったら知りえなかったと感じます。

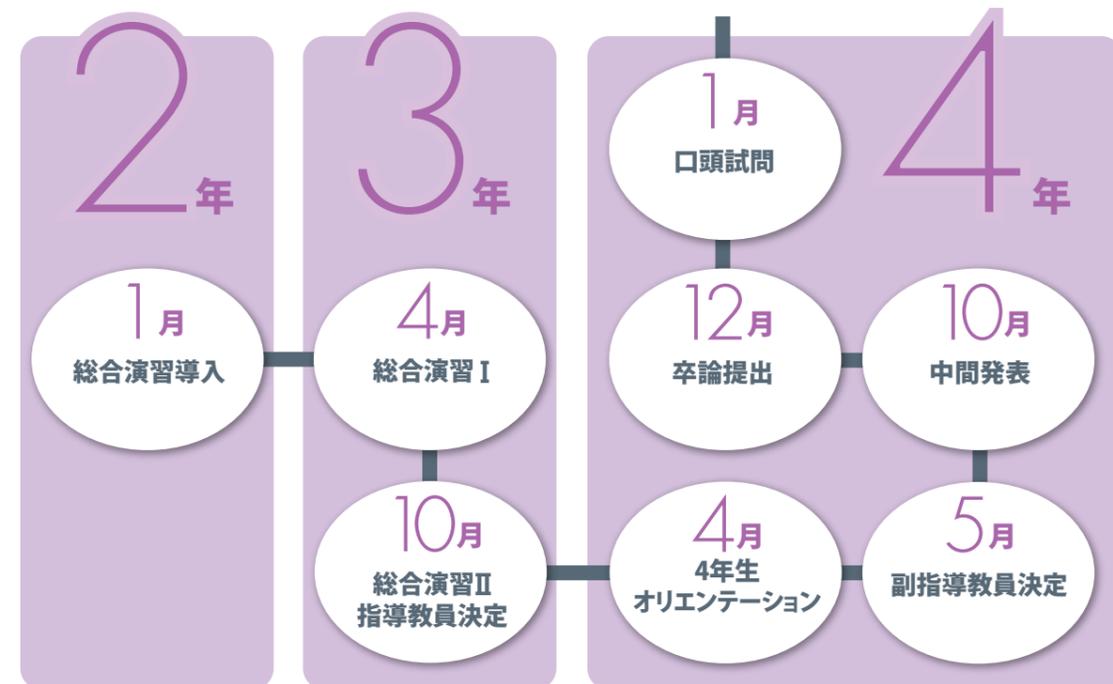
留学と平日、という少しイメージが異なる印象が強いかもしれませんが、留学するからこそ日日の面白さを別の角度から知ることができると私は思います。平日なのになんで留学?と思った方は是非、実際に留学をしてみましょう!



卒業論文

卒業論文は4年間の学生生活を締めくくる、大学における学業の総決算と言えます。若い感性でさまざまな吸収してきた滋養を基にして、ひろくアンテナを張りめぐらし「問題」を発見します。その課題の解決法をあれこれと試行錯誤しつつ導き出す過程を、分析的に説明することが求められます。漠然と分かっているつもりのことでも、思考を言語化して説明することは非常に苦しいことです。しかしこの苦しみを通してしか「唯一のもの」の創造は生まれないのです。この創造の実感はずっと皆さんの人生のなかでもっとも充実したものとなるにちがいありません。

論文のスケジュール



卒業論文題目 最近の卒業論文題目(一部紹介)

- 接尾辞「み」の使用と用法の拡大
- 議論の場におけるファンリテーターの役割—発話行為の観点から—
- 教科書の映像分析を通じた女性像—小学校6年理科を対象に—
- 学校唱歌に見られる日本の美意識の背景
- 人情本『春色梅児誉美』における女性の人称詞とその位相差
- 「オノマトペ+つく」の意味・用法の研究
- 埼玉県深谷市における特産品ブランドの展開と変容—深谷ねぎに着目して—
- 英語学習者の熟達度とワーキングメモリが曖昧な英文の解釈に与える影響
- 左遷時における菅原道真「叙意一百韻」と白居易「東南行一百韻」の比較研究
- 文法教科書の変化から見る連体詞の導入経過の考察
- 米軍占領下の教育改革における教師の変容と葛藤
- タイ中等教育機関における日本語学習者の学習意欲に影響を与える要因—質問紙調査の結果から—
- 海外子女に向けた日本語教育の実態に関する一考察—ポートランドの日本人教育機関を事例に—
- 外国人日本語学習者の母音が後続する撥音の聞き取りと発音について

昭和63年度からの卒業論文一覧は、HP (<http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/theses/>) で、「筑波日日」で検索!

卒業後の進路

日本語と日本文化を総合的に学び、異文化交流にも深い理解を持つ日本語・日本文化学類の学生には、社会のさまざまな分野での活躍が期待されています。その期待に応え、これまでの卒業生は、各々の希望や適性に最も適した道に進んでいます。

主な進路

最新の情報は、<http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/toukei/index.htm> 「筑波大就職」で検索!

一般企業

ここ数年、卒業生の約半数が一般企業に就職しています。職種・業種ともに多岐に渡り、教育サービス業(教材販売、教育システムサービス、語学学校、等)、情報サービス業(情報通信システム開発、コンピュータソフトウェア開発、等)、流通・小売業(スーパー、コンビニ、等)や報道・出版業(新聞社、出版社、等)に就職しています。言語・文化両方にわたる視野の広さという、本学類の特質を仕事に活かすことが期待されています。

ベネッセコーポレーション/ホテルオークラ東京ベイ/日本放送協会/中央出版/学校図書/光村図書出版/いなげや/セーブオン/足利銀行/メガネドラッグ/丸井グループ/NTTデータシステム技術/横浜信用金庫/JTB/トップツアー/佐渡汽船/日本郵政/エス・ハイ・エル/ヤマハ発動機/関東鉄道/群馬銀行/早稲田アカデミー/富士通/丸紅/あおぞら銀行/第一三共/三井記念病院/エイチ・アイ・エス/日本武道館/マイナビ

教師

本学類では、中学校・高等学校の国語科の一種教員免許が取得できます。学類生の半数ほどが教員免許を取得し、5~6名が実際に教師になり、言語学的な面に強くしかも日本語教育の素養もあるユニークな国語科教員として活躍しています。

また、卒業後すぐに日本語教師として日本語教育に従事する者もいます。しかし、現在、大学や研究機関などの高等教育機関で日本語教師の職を得るためには、国内外を問わず修士以上の資格が求められるので、日本語教師を目指す人の多くは、学類卒業後、大学院を経て日本語教師として活躍しています。

福島県立中学校/富山県立高等学校/長野県立高等学校/茨城県立高等学校/学校法人東京聖徳学園/栃木県立中学校/埼玉県立高等学校/宮崎県立高等学校/静岡県中学校/星野女子高等学校/群馬県立中学校/明星学園高等学校

国立研究開発法人

国際農林水産業研究センター

公務員

幅広い教養と広い視野を身につけて、公務員(県庁・市役所職員、裁判所職員、等)の道に進む卒業生も毎年数名います。

総務省/文部科学省/厚生労働省/茨城県庁/茨城県警察本部/東京都庁/福島県庁/愛媛県庁/佐賀県庁/広島県警本部/つくば市役所/成田市役所/沼津市役所/静岡市役所/豊橋市役所/仙台市青葉区役所

進学

学類での勉強の後、さらに専門分野の研究を続けたい場合、また、修士や博士の学位を得てより高次の専門職につきたい場合は、大学院に進学することになります。

大学院修了後の就職先は、国内大学教員では、筑波大学、東京大学、首都大学東京、群馬大学、広島大学など、海外大学教員では、中国の大連大学、韓国の興信大学、イタリアのカターニア大学など、世界中で広く活躍しています。

筑波大学 人文社会科学部

- 文芸・言語専攻：
応用言語学領域、フランス語学領域
- 歴史・人類学専攻：
日本史学領域、歴史地理学領域、日本民俗学領域
- 国際日本研究専攻：日本語教育学学位プログラム

筑波大学 教育研究科
筑波大学 人間総合科学研究科
北海道大学/大阪大学/東京外国語大学/東北大学/早稲田大学

留学

大学卒業後、留学しながら日本語教師アシスタントをする人もいます。また、語学力を高めたり、さらに専門的な知識を深め、実践的な経験をつむために海外の大学・大学院に留学する人もいます。



先輩の声

企業 阿部 宥子 (株式会社アスク出版編集部)



「日本語教育業界に身を置くこと」と「出版社で働くこと」。この二つを、入学前は全く別の道だと捉えていましたが、今私は、出版社で日本語の教科書を作っています。私は、卒業後1年間、上海の高校で日本語教師をしていました。そこでは毎回手づくりのプリントを用意していたのですが、教材に対する興味が深まり、帰国後大学院で修士号取得後、現在の出版社に入りました。日日には出版社へのインターンプログラムが準備されており、そこで経験したことも、職業選択に大きく影響していると思います。教科書編集の仕事は、企画・予算組み・著者探し・学校見学・校正・販促品作成・学会参加・持ち込みの対応...など、多岐にわたります。それらの業務を行う中で、教師派遣、日本語学習アプリの開発、日本留学コーディネイトなど、多種多様なお仕事をされる方に会いました。「日本語教育関係の仕事」って日本語教師だけじゃありません。日日で学びながら、「日本語教育×○○=?」について考えてみるのはいかがでしょうか。

教師 川口 温子 (学校法人滋慶学園東洋言語学院)



東日本大震災の大きな影響を受け、留学生がみんな国に帰ってしまった2011年4月、私は、東京にある東洋言語学院で、日本語教師としてデビューしました。それまで国語教員をしていた自分の経験は全く役に立たず、日本語を教えることはなんと難しいのかと悩む日々。大学で身につけた「学ぶ習慣」を振り所に、新しいことを学んでいきました。「教えることが仕事じゃない、学生達の成長をサポートしていく環境づくりが私の仕事なんだ。」母校で学んだことも同じだったかもしれません。これから社会に出ていく学生たちにどんな力が必要なのか、先輩や上司と何度も話し合い、1年後には私たちの考えを反映させたユニークな教材が完成しました。それから8年、今、目の前には37カ国600名の学生がいます。私の仕事も、オリジナル教科書作製、海外の教育機関とのネットワーク作り、日本語教師養成講座の開設、地域の日本人と外国の人々との理解を促すイベントと、広がっています。多文化社会への貢献。これが今の私の仕事です。

公務員 津田 有沙 (東京都港湾局臨海開発部)



在学中、米国で1年間日本語を教えた経験を元に、バイリンガル教育における学習への動機付けについて研究し、現在は地方公務員として働いています。日での学びを通して多角的な視点で物事を冷静に捉え、実行する習慣が身につけていたからこそ、満足できるキャリアを築けていると実感しています。これは、留学生を含む同級生、海外日本語教育実習先の先生や学習者と、日本語や日本文化について複数の視点で改めて考え、議論を深めた経験から得た、意見を受け入れつつも着実に実行していく力が生きています。港湾局では埋立地の管理を担当し、最近では選手村の整備等のオリンピック関連の業務を行っています。他部署や外部との調整が日常的に発生しますが、他者の意見を尊重しつつも、自分の考えを適切に伝え、課題を解決していく能力は、日日で自然と培ってきたものです。座学だけでなく、国内・海外に実践の場がある日での学びは、私の人生を豊かにしてくれたと確信しています。

海外 星 早貴恵 (SECOM (M) Sdn Bhd)



海外未経験の私が、友人に誘われて、マレーシア工科大学での実習に参加したのは、2年生のときでした。マレーシアの穏やかな雰囲気、気候、文化、人々の親切さに魅了され、現在私は、マレーシアにある日系企業で、在マレーシア日系企業向け営業職として勤務しています。全国各地から集まったクラスメイト、世界各国からの留学生、魅力的な先生方とともに過ごす大学生活は、多様な価値観に溢れており、様々な人と交流しながら「自分らしさとは何か」「日本人らしさとは何か」自問自答する日々であったように思います。現職では、日本人のお客様の前では日本人らしい立ち居振舞いが求められ、社内ではマレーシア人社員との調整業務が主となり、日本での常識が通じません。そんな環境でも心が折れることなく生きていけているのは、多様な価値観を尊重しながら自分らしく振舞うことを学んだからだと日々実感しています。日での4年間は、皆さんを「世界のどこでも活躍できる人材」にしてくれること間違いありません。

まだまだ知りたい学類Q&A

学 習 編

Q どんな授業がありますか？

A 一般的に、先生方が授業の趣旨にそった内容について「講義」をする光景が思い浮かぶと思いますが、他にも「演習」や「実習」などがあります。

「演習」とは、各自に時間が割り当てられ、学生が発表していく形式の授業です。ある事柄に対して自ら疑問を持ったテーマについて調べ、考察し、その成果を授業の中で発表するというものです。個人発表やグループ発表など形態は様々です。多くの文献にあたり、分析力を身につけられるので、研究することの楽しさを実感できるでしょう。

「実習」とは、現地に出かけて調査を行ったり、実際に教壇に立って日本語を教えたりする、いわば実践型の授業です。海外の教育機関で研修をしたり異文化交流をしたりするものもあります。机上の学問だけでなく、実際に現場を見たり、経験したりすることで、新たな視点を切り開いていくことができます。

Q 外国語には何がありますか？

A ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・朝鮮語から一つ選択し2年間学ぶ「初修外国語」が必修科目です。さらに語学の実力を付けたい場合は、2年生以降、各言語の中級や上級を履修することもできます。もちろん英語も必修科目で、2年生では、より高度な内容を扱い、実践力をつけていく「専門英語」もあります。一部の授業は基本的に全て英語で行われます。

Q 大学図書館について教えてください。

A 筑波大学図書館は、全国有数の蔵書数を誇り、毎日、多くの学生や教員が学習や研究に利用しています。館内には個室の自習室や勉強会用セミナー室も多数あります。また、自宅からでもオンラインで、文献情報の検索や貸出予約・延長ができたりします。多数のデータベースへのアクセスや他の大学図書館との相互貸出も行っており、高度な研究のためには欠かせない存在です。

Q 海外日本語教育実習は誰でも参加できますか？

A はい。「日本語教育国際研修」の標準履修年次は2~4年生で、例年、ほぼ希望通りに参加することができます。とはいえ、いきなり日本語を教えることは難しいので、他の日本語教育に関する基礎的な授業でしっかり学んでから挑戦することが望ましいでしょう。応募多数になった場合は、それまでに履修した科目や成績が選考基準となります。

Q 他学類の授業は履修できますか？

A 日本語・日本文化学類の授業だけでなく、他のどの学類でも自分の興味のある授業を自由に受講することができます。ただし、卒業単位(124単位。JE生は135単位)として認められる他学類の授業単位数には、上限があります。

Q 試験はどのように行われますか？

A 試験の形式は、授業によって先生によって様々です。普通のテストのような形式だけでなく、自分の考えを論理的にまとめる形式のものもあります。必ずしも明確な「正解」はなく、自分の考えを、筋道を立てて述べられるか、ということも問われているのです。レポートが課されることもあります。授業と関連のあるテーマが設定され、それについて自分なりに調べて分析するものや、授業内容に関する自らの考えを述べるものなどです。

Q 教員免許を取得したい場合はどうしますか？

A 教員免許を取得しようとした場合、「教職に関する科目」を多数履修する必要があります。さらに、「教科に関する科目」も必要ですが、国語(中学校・高等学校教諭一種)の場合、日本語・日本文化学類の開設科目から履修すれば、卒業単位としても教職単位としても認められるので、それほど大きな負担とはなりません。実際、日日の半分ほどの学生が教員免許の取得を目指しており、国語教員免許取得率は、全学で日日が一位です。

生 活 編

Q 学生宿舎について教えてください。

A 新入生が優先的に入居できるよう配慮された施設です。毎年、1年生のほぼ全員が入居して新しい大学生活をスタートさせています。学生宿舎はいわゆる「寮」とは違い、管理は学生自身に任されています。そのため門限や規則などはなく、常識とモラルの範囲内で自由に生活することができます。入り口には認証システムがあり、セキュリティーは万全です。なお、宿舎ではトイレ、炊事場、洗濯室はフロア共用になります。コインシャワーもあります。居住棟の近くには共用棟があり、食堂、浴場、コンビニ、理容等が配置されています。水道代、ガス代は不要で、電気代のみ支払いますが、格安です。2年次以降も入居したい場合は、希望者による抽選になります。

Q 留学生との交流について教えてください。

A 筑波大学にはグローバル・ヴィレッジという一般学生と留学生のシェアハウスタイプの学生宿舎があり、留学生と生活を共にすることができます。また、日日には多くの留学生が在学しており、チューター制度を利用したり留学生交流パーティーなどに参加したりすることで、授業以外にも多くの留学生と交流することができます。

Q 大学には、他にどのような施設がありますか？

A 書籍部：書籍や文房具などを全て割引価格で購入することができます。

大学会館：郵便局、コンビニ、旅行会社、画材店があります。
保健管理センター：内科・整形外科・精神科・歯科の診療を、学生証を提示することで安く受けられます。また、必要に応じて他の医療機関を紹介してもらえます。

そのほか、日日授業棟の中には、録音実験に使える防音室、教育実習で使うマジックミラーの部屋と観察室、学生控室や資料室もあります。また、日日学類関係の部屋として、話し合いに使える畳張りの和室や、教室の一角に障子と床の間の茶室もあり、ここで茶道を学べる授業もあつたりします。

Q どんな食堂がありますか？

A 筑波大学には様々な食堂があり、定食やカレー、パスタ、そば・うどん、パン屋など、構内だけでも20近い食堂を利用することができます。いずれの食堂でも300~500円程度で食事ができますので、いろいろ巡ってみて、自分の好きな食堂を見つけてみるのもいいでしょう。夜遅くまで営業しているお店もあるので、夕飯やサークル前の腹ごしらえに利用している人もいます。

Q 学内でパソコンを利用することができますか？

A 筑波大学では、全学計算機システムのサテライト室(コンピュータ室)が、図書館や学群棟(講義棟)の各所に配置され、学生はそのどこでも同じようにパソコンやプリンタ、スキャナを利用することができます。また、学内無線LANシステム、学生宿舎LANシステム等の設備も充実しており、宿舎でも無料でインターネットを楽しむことができます。なお、メールアドレスが学生全員に与えられており、学外からチェックすることができます。

Q 学生の交通手段は何ですか？

A ほとんどの学生が自転車を利用します(このページの背景をよく見てください)。大学周辺には宿舎やアパートが多数あり、お店も多数点在するので、自転車があれば不自由のない生活が送れます。中には自動車やバイク等を利用する学生もいます。自動車所有率は、他大学より多いかもしれません。学内移動やつくば駅までは、大学循環バスを利用する人も多いです。つくば駅から秋葉原へは、つくばエクスプレスが最短45分と早いです。大学から東京駅まで行く高速バスも出ています。

Q サークル活動には、どんなものがありますか？

A 筑波大学公認のサークル活動には、大きく分けて「体育会系」「文化系」「芸術系」の3つがあります。

体育会系サークル：サッカーや野球、テニスといったメジャースポーツから、ヨット、ライフル、アーチェリーまで、様々なサークルが活動しています。

文化系サークル：茶道、映画、将棋から、社会福祉系サークルまで、様々なサークルがあります。

芸術系サークル：オーケストラ、アカペラ、合唱、津軽三味線といった音楽系のものや、舞踏、絵画、焼き物、写真といったものがあります。

入試案内

【入試の詳細】

最新情報は、大学や学類のホームページをご覧ください。

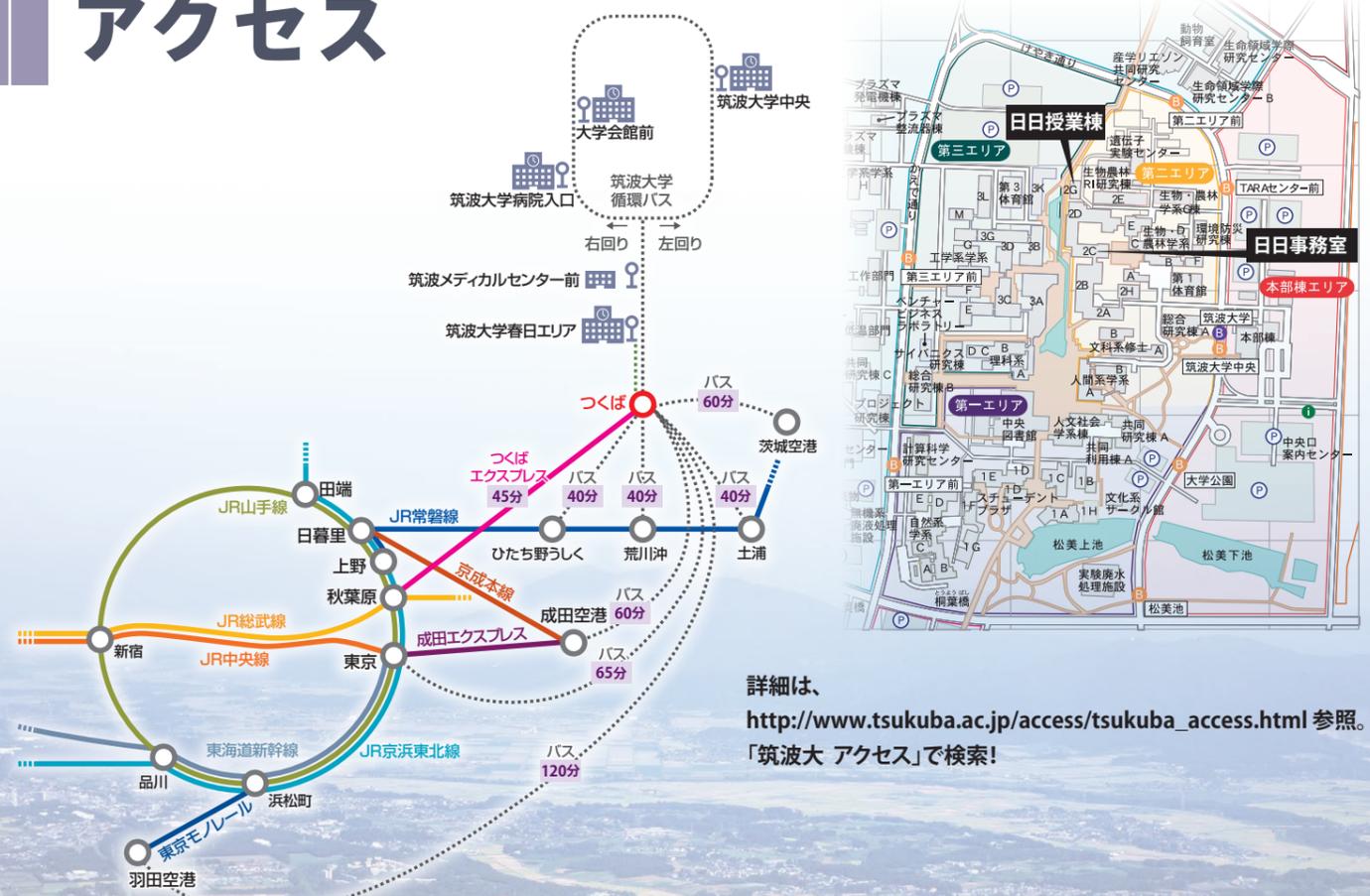
筑波大学ホームページ <http://www.tsukuba.ac.jp/>

日本語・日本文化学類ホームページ <http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

【受験生のための筑波大学説明会】

毎年7-8月に「オープンキャンパス」が筑波キャンパスで、3月末に「春の進学説明会」が東京キャンパスで行われます。詳細は、日本語・日本文化学類のHPをご覧ください。

アクセス



伝えたい日本がある。



編集後記

この度は、日本語・日本文化学類のパンフレットを読んでいただきありがとうございます。みなさんの目に日日はどのように映ったでしょうか。パンフレット以外にもホームページやTwitterなどでたくさん情報を発信しております。ぜひご覧ください。

そして、パンフレット作成にあたり、ご協力くださった先生方、卒業生、在学生、全ての方々に感謝いたします。ありがとうございました。

2019年度日本語・日本文化学類公式パンフレット制作委員会
池田由希菜、BAI BOO YONG、竹下太崇、瀬邊風馬